

- | | |
|-----------|-------------|
| ◎ ふれあい・協力 | ◎ コミュニケーション |
| ○ 信頼関係 | ○ 達成感 |

対 象 学 年	
園 児	小学生（低・中・高）
	中学生以上

森のキャンプファイヤー



プログラムの概要

焚き火を囲んでのひととき。それは、互いを理解し合うひととき。心が通い合うひととき。心が和むひととき。仲間と楽しむひととき。いろいろな「ひととき」が考えられます。

キャンプファイヤーは、『ねらい』によって展開をさまざまに工夫することができます。

指導者の「おもい」はなんですか。参加者の「ねがい」はなんですか。

これから示すものは、ほんの一例であり、これが一般的というものではありません。ここでの活動の「ねらい」は何か。ねらいを明確にした「キャンプファイヤー」をおすすめします。

所要時間：1～1.5時間程度

独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立妙高青少年自然の家

キャンプファイヤー

1 活動のねらい

「プログラムの概要」でも述べましたように、「ねらい」はさまざまです。初めて出会う仲間同士の親睦を図る、キャンプへの動機付けとする、少人数グループでの仲間づくりを目的とする、など指導者の「おもい」や参加者の「ねがい」から、「ねらい」を明確にしましょう。

2 活動のフィールド

- ・ キャンプファイヤー場7カ所
- ・ スバルの丘（100名程度）、ペガサス広場（100名程度）、こぐま広場（50名程度）、小池広場（20名程度）、ありの巣広場（40名程度）、かえで広場（80名程度）、第2ファイヤーピステ（30名程度）

3 準備品

〈自然の家で用意できるもの〉

- 火床となる鉄板と鉄かご、ワイヤレスアンプ、CDラジカセ、延長コード、トーチ（各キャンプ場5本まで）、バケツ（各キャンプ場3ヶ）、一斗缶（グループファイヤー用）

〈団体で用意していただくもの（必要に応じて）〉

- トーチ先端につける布、たいまつ、マッチやライター等、焚き付けに使う新聞紙等、衣装や小物等

〈食堂事務室から購入していただくもの〉

- まき、灯油



4 活動の手順

（1）指導者・引率者及び参加者が行う事前準備

- ① 事前打ち合わせの時に、または、参加者を自然の家に連れてくる前に、現地の下見を行いましょう。その際、キャンプファイヤー用の用具確認も忘れずに行ってください。また、参加者の出し物や指導者の動きなどを確認し、キャンプファイヤーの流れを考えておいてください。
- ② 活動を始める前には、火床の設置、薪組み等の準備をしたり、流れの確認をしたりしましょう。明るいうちに行うことが安全のためにもよいでしょう。



（2）活 動

○ セレモニアルファイヤー【儀式的火】

- ① 準備 開場やスタンプの準備など
- ② 迎え火のつどい
- ③ 交歓の集い うた、ゲーム、ダンス、教育的な話等
- ④ 送り火のつどい
- ⑤ 後片付け



○ボンファイヤー【親睦の火】

- ①準備 会場準備 進行（ゲーム等）の準備
- ②交歓のつどい 歌、自己紹介、ゲーム、ダンス、お話等
- ③後片付け

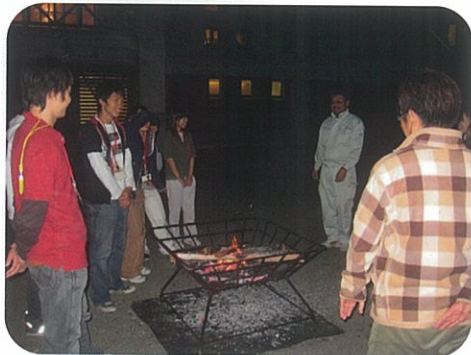
※ゲームや歌などの説明は少なく、間を空けずに行うとよいでしょう。

※歌は、全員が心から歌えるように練習しておきましょう。または、参加者がよく知っている曲を選択するか、エコーソング（リーダーの後に続いて歌える曲）を中心に行うとよいでしょう。

※指導者は、場の雰囲気をしっかりコントロールし、活動の流れや参加者の心の動きと火の大きさを調和させていく必要があります。



○後片付け



①火の後始末

薪は、なるべく燃え尽きる（灰捨て場の網を通る大きさ）まで燃やし、残った灰や薪をしっかりと消火し、灰捨て場に捨てます。
※燃え尽きるまで、必ず誰かが見ていてください。（火がついているうちは離れないでください。）

※その日のうちに灰や薪の後始末をしてください。

※灰捨て場（キャンプ場と第2野外炊事場の2箇所に設置してあります。）



②火床を片付け

灰や燃え残った薪をきれいに取ってから、元の場所に火床を移動しておく。その他の道具も、きれいにしてから元の場所に戻します。

灰捨て場

燃え残りが、上の網を通り抜けるぐらいまで燃やしてください。



ふりかえりのポイント

- ①子どもたちのがんばりをおもいきり褒めてあげましょう。
- ②「先生、あのね」や「〇〇さん、あのね」の時間を設けて、子どもたちの話したい気持ちを表現する時間を作ってあげるのもよいでしょう。
- ③キャンプファイヤーをふりかえり、自分の言動や友達の様子、準備のこと、新しい発見など、次の活動に向けて気づいたことを話し合ったり、手紙に書いたりしてみるのもいいですね。

※ただし、「ねらい」によっては、活動の余韻を楽しむようにして、個々に静かな時間を過ごす方法もあります。ここでも、「ねらい」が重要なポイントになってきます。

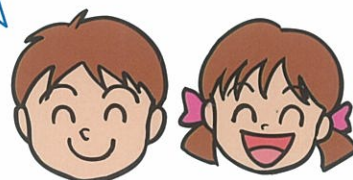
5 指導上の留意点

- (1) 火を使い、夜間行うこともあり、以下の安全管理を万全にしてください。
 - ・消火用の水が入ったバケツの設置。
 - ・風むききを考慮して、ファイヤーと子どもの位置の指導。
 - ・発火装置やトーチを使用する場合は、使い方や持ち方、動きなどを事前に確認。
 - ・ファイヤーへ直接灯油や薬品等の注入禁止。
 - ・事故発生時の連絡方法の確認。
- (2) 全員で厳粛かつ楽しい雰囲気作りを心がけましょう。全員がよき演出者であると同時に、よき観衆であるようにし、無駄な懐中電灯の点灯や私語、「やじ」などをしないようにしましょう。
- (3) スタンツなどで、割り当てられた時間を守り、終わった時には惜しめない拍手をしましょう。
- (4) 自然の家は国立公園内にあるため、地面での直火や花火は禁止です。火の扱いには十分に注意してください。
- (5) 音楽の表現活動として、自然物で作った楽器や創作したリズムなどの発表を取り入れたり、自由な発想を生かして表現したりしていろいろな音楽表現を楽しむ活動をすることもできます。また、体育の表現活動の発表の場としてもいいですね。

この活動プログラムは、ほんの一例であって、「ねらい」に応じて展開の仕方をさまざまに工夫することができます。言い換えれば、キャンプファイヤーには、決められた形式はないということです。

さらに言えば、「なぜ、キャンプファイヤーなのか」ということです。「昨年もやったから」「とりあえず…」では、せっかくのキャンプファイヤーの意味が薄れてしまいます。キャンプファイヤーは、ねらい達成のための一つの手段（方法）という考え方をもちましょう。

そして、指導者の「おもい」や参加者の「ねがい」が達成されるためにどんな活動が有効なのかを考えることが大切です。夜の活動は、他にもたくさんあります。



ねらい別活動プログラム集「キャンプファイヤー」

発行日：平成20年2月28日

発行：独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立妙高青少年自然の家
<http://myoko.niye.go.jp/>

所在地：〒949-2235 新潟県妙高市大字関山6323-2
執筆：大瀬 孝志（事業推進係）